

愛宕臨床栄養研究会（ACNC）第68回学術研究会

— 東京慈恵会医科大学4病院におけるNSTの現状 —

日 時：平成22年3月5日 午後6時-7時30分

会 場：東京慈恵会医科大学 西新橋校 大学1号館5階講堂

司 会：小川 篤美（東京慈恵会医科大学附属病院栄養部）

はじめに

東京慈恵会医科大学附属病院栄養部

小川 篤美

ひとりひとりの患者さんについて、その疾患や受ける治療に応じた栄養管理を適切に実施することを栄養サポートといい、栄養サポートを実施する医師とコメディカルからなるチームが栄養サポートチーム（NST）である。本学4附属病院ともにチーム医療を進め、入院患者一人一人の身体状況・栄養状態の把握を行い、治療計画・治療・評価を実施している。各職種で編成されているチームの特性を生かし、栄養療法に関する知識や専門性を発揮し、チーム全体の質向上が必要であると考えます。また、管理栄養士の役割として栄養管理計画書の作成・必要カロリーの算出・栄養指導・栄養補給を検討し適正な食事や栄養剤の選定を行っている。いずれにおいても、看護師・中央検査技師・多職種との連携が必要であることを実感している。このチーム医療における専門的な役割を担うとともに、高齢者や栄養不良の患者さんのQOL向上・早期回復を図るべく栄養管理の重要性が求められている。

演題1：東京慈恵会医科大学附属病院

東京慈恵会医科大学附属病院栄養部

小沼 宗大

目的：東京慈恵会医科大学附属病院（当院）では2006年10月よりNSTを導入、稼働してきたが、客観的評価と今後のプランニングが必要である。また、2010年度の診療報酬改定では、栄養サポートチーム加算200点（週1回算定）が加わるため、NSTの在り方についても、多角的にみる事が重要となる。当院ではNST導入よりも20年以上前

から、看護師、栄養士が独自に取り組んでいる「個人栄養食事相談」は、角度をかえてみるとNSTの取り組みに他ならない。そこで、当院のNST活動内容とともに、平成21年度、10ヵ月間の個人栄養食事相談の現状について報告する。

方法：平成21年度のNSTの概要①NSTメンバー：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、事務員、管理栄養士②回診・カンファレンス：毎週金曜日③対象患者：「病棟NST（個人対応）依頼伝票」にて依頼があった患者、「対象病棟の血清アルブミン値3.0g/dl以下の患者から抽出、NSTメンバーから挙げた患者④対象症例数：平成21年4月～22年2月までに27名。一方、病棟訪問件数：平成21年度2月までに1081件。経口摂取不良に関する相談および食事内容の検討が全体の64%を占め、内、45%が血清アルブミン値3.0g/dl未満の低栄養状態を呈していた。

結語：今後、院内での個人栄養食事相談に関しても、医師、看護師、患者が治療目標を統一した方針の一環として、NSTを通して依頼を行うことで、より積極的な栄養介入を実施し、患者の早期疾病治癒につなげていきたい。

演題2：東京慈恵会医科大学附属青戸病院

東京慈恵会医科大学附属青戸病院中央検査部

安藤 隆

発足から2年半が経過した東京慈恵会医科大学附属青戸病院（当院）のNST活動における現在の状況を報告する。

当院では平成19年7月にNST委員会が発足し、同年10月にNST回診を開始して現在に至っている。構成メンバーは医師2名、看護師2名、病棟看護師3名（サブメンバー）、管理栄養士4名、

薬剤師1名、臨床検査技師1名である。

NST対象者は全ての診療科（小児科を除く）から抽出され、週1回ベッドサイドで回診し、対象者および病棟スタッフに対して栄養管理の支援・指導を行なっている。なお、対象者の抽出方法は①入院時栄養管理表をもとにアルブミン、ヘモグロビン値から抽出する方法②病棟看護師から依頼を受ける方法③担当医師から依頼を受ける方法等がある。とくに最近では病棟看護師から依頼を受けることが増えており、より適切な対象者の抽出が出来るように依頼方法等を再検討している。

NST介入症例の概要は平成21年12月までの間で総件数65例（男性38例、女性27例）、平均年齢73.4歳±13.0歳であった。また、1症例における平均介入日数は16.5日であり、最長8週間にわたって介入を行なった症例もあった。

このように当院では、栄養状態に問題を抱えた高齢の患者に対し、長期的に介入して改善を図るといった活動が主となっている。しかし、在院日数の短縮化が進む中で、退院や転院などによりNST介入が終了してしまう症例がしばしば存在しており、今後はどのようにして対象者の長期的な栄養管理を行なっていくかが課題となっている。

演題3：東京慈恵会医科大学附属第三病院

東京慈恵会医科大学附属第三病院NSTチェアマン、総合診療部
平本 淳

東京慈恵会医科大学附属第三病院のNSTが2008年9月に発足して以来1年半の活動を報告する。

NSTは、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学士、医事課の多職種で構成されており、以下の活動を行っている。

1. NST回診：全病棟の患者を対象に、NST依頼票で回診依頼を受けている。各職種が担当する分野のデータをPCに入力してできた回診表をもとに週1回回診し、全身状態、嚥下機能、食への意識、患者の希望などを聞いて栄養メニューを提案、後日評価している。回診記録はカルテに記載するとともに、PCにデータとして蓄積している。

2. NSTニュースなどの発行：栄養管理の重要性の啓蒙のため、月1回NSTニュースを発行している。また、研修医向けに栄養管理ポケットマニュアルを作成した。

3. 栄養管理に関連した申請：経腸栄養ポンプを申請、購入した。また、日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設の申請を行った。

4. 勉強会の企画、運営：院内全職員を対象としたNST勉強会を年10回企画、開催するとともに、年1回近隣の施設にも参加を呼びかけ、外部講師を招聘し、NST感染管理セミナーを開催した。

5. 研究発表：NSTの活動により得られた知見を第三病院成医会などで発表し、毎回高い評価を得ている。

演題4：東京慈恵会医科大学附属柏病院

東京慈恵会医科大学附属柏病院NST委員会、看護部
中村 史子

東京慈恵会医科大学附属柏病院NSTは2002年9月から発足し、2008年4月より病棟ラウンドを開始し活動している。病棟ラウンド開始後、患者ケアへの有用性やラウンド回数の適正、NSTの認知度を把握し活動を評価することを目的に、職員に対し意識調査を行った。その結果から検討課題を抽出し、現在の活動に至っており活動状況を報告する。

NSTラウンドで関わった患者の中で栄養状態が改善し退院に至った症例について紹介する。NSTチームとして、栄養部により必要摂取カロリーに応じた食事内容の提案、看護師による患者の嗜好や摂取状態の把握、リハビリテーションの運動量から摂取カロリーの評価、褥創の状態の評価など、それぞれの立場で意見を出し合い、患者の状態を共有し検討していったことで、効果が得られたと考える。NSTチームとの連携には、患者の状態を把握する看護師は重要な役割を担っており、症例から看護師としての関わりを考えてみたい。